

青森県の中学生は、高校入試で国立高専、県立、私立、県外私立を選んで受験できる。親の世代が受験生だった頃、県立高校には学区があり、学区外からの受験には縛りがあった。しかし、今は撤廃さ

で決めきれず、塾に相談したいというケースが今年も連続している。親は「やりたい」とをやらないことが決まっている。さりと話すことが多い。さら

見創見

Thursday

に最近は、「納得が行くまで考えなさい。何度も願書を書き直すから」と担任が言つてくれる中学校も出てきた。まさに高校入試は家庭の自己選択・自己責任の時代だ。

先日、中学生コースの授業で、中学3年男子から「熟長、行きたい高校の内申点に全然届いていなくて、本番でござい点数を取れば受かるものなんですか?」と質問があつた。

私は「すぐ」点数を取れる由に受験できる。

この地域の学校では12月初旬から、中学3年の3者面談が行われている。志望校を決めて臨むのが原則だが、面談

欲望に勝ち、自由に生きよ!

い、やりました!」と即答しました。「国語が52点。漢字が30点です」。「12問です」。「12問? テストの前夜は、漢字をやらなかつたの?」と聞くと、「え、やつたました!」。「えつ、やつた」と顔をのぞき込むと、「それは、全部やらな

でありますか?」と質問があつた。

私は「すばらしい点数を取れるくらいやれば、だろう?」とあきれながら、彼の期末テストの結果に目を移し、「やるべきことをやつて臨んだ点数か?」と聞いた。すると「は

つけられたからで…」と頭をかいだ。私は語氣を強めて「そう

が広がっていると感じること時」と。「それで何時に起きたの?」と優しく尋ねると、「12時」と。

う時は、やりませんでした、

学力の二極化

畠山 篤

志学塾塾長



はたやま・あつし
1960年、八戸市生まれ。
明治学院大卒。志学塾を運営しながら、全国各地で講演。「勉強部活」を提唱、放課後学習支援などに関与する。全国学習塾協会理事。

設けて議論した上で、2020年度改定で制度自体の廃止を含む抜本的な見直しを検討する。

妊娠加算 1月から凍結

中医協了承

一方、日本医師会の松本吉郎常任理事は19日午後の記者会見で「中医協での検証も議論もなく、(厚労省)から凍結すると諮問されることは異例。手続きには違和感を覚える」と述べ、成績下がって改善点は?」と声を掛けた。うつむいたま

市町村の防災支援強化

気象台に担当チーム設置へ

氣象庁が2019年度から、防災の最前線を担う市町村の支援を順次強化する方針を固めたことが19日、同市関係者への取材で分か

った。各地の気象台に担当

チームを置き、日頃から「顔

の見える関係」を構築。平

時は地域特有の災害リスク

を共有して対策を考え、緊

急時には迅速に連携すること

で防災力向上を目指す。

同市には豪雨をもたらす全

くとも、妊婦の自己負担

(原則3割)は初診で約2

30円、再診で約110円

されず、妊婦や家族に誤解

導入から9カ月で見直すことになった。

めた答申書で「制度の趣旨

と内容が国民に十分に理解

経過

「妊婦加算を導入する相が「制度の趣旨を理解する」を要する考え方を

次郎厚労部会長が要請

格化策を自民厚労省が認識せず算定できないと

度の凍結と、20年で制度自体を抜

針を表明

協議会が19年凍結を了承

た。

一方、日本医師会の松本

吉郎常任理事は19日午後の記者会見で「中医協での検

証も議論もなく、(厚労省)

から凍結すると諮問され

ることがある。妊婦加算は、

これを防ぐため4月の診療報酬改定で創設された。厚

労省は今後、有識者会議を

した。

妊婦中の女性が医療機関を外来受診した際に初診料などに上乗せされる「妊婦加算」について、中央社会保険医療協議会(中医協、厚生労働省の諮問機関)は19日、来年1月から制度運用を凍結するとの厚労省方針を了承した。1月1日以降、上乗せ分の医療機関への支払いも、妊婦からの徴収も停止する。今年4月の支入から9カ月で見直すことになった。

同加算で妊婦の自己負担

が広がっていると感じること

時:」と。「それで何時に起

きたの?」と優しく尋ねると、「12時」と。

う時は、やりませんでした、

私は語氣を強めて「そ

うが少なくて、特に「やるべ

きことをやっている子」と

いました!」。

えつ、やつた

ました!」。

えつ、やつた

</